

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立千寿桜堤中学校 校長 齋藤由美子

1 学校教育目標

○自ら考え、自ら学ぶ人 ○感性あふれる、心豊かな人 ○心身を鍛え、たくましく生きる人

2 現状の学校図書館の課題

- ① 図書館が狭く、1クラスが学習するスペースの確保が難しい。
- ② 授業で活用する時間の確保が難しい。ICTと関連した学習を工夫したい。
- ③ 図書館に行かない、本を借りたことがない生徒が多い。

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ① 学校図書館を「読書センター」「学習・情報センター」として利活用するよう、推進を図る。
- ② 生徒の読書活動を支援し、様々な情報を効率的に駆使できるよう指導する。
- ③ 創立20周年のイベントを企画実施する。

4 今年度の重点的な取組

- ① 学校図書館で学習が円滑にできるよう、環境を工夫する。
- ② 読書時間を確保し、できるだけ図書館の本を読むよう様々なアプローチをする。
- ③ 生徒が行きやすい、居やすい場所となるよう、学校司書の対応時間も工夫する。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	①図書館利用ガイダンス ①本の紹介ポップづくり ①根拠を示して説明しよう ②メディアの特徴を生かして情報を集めよう ③情報を読み取って文章を書こう
社会	①中世の日本と世界 ②日本の近代化 ③私たちと国際社会
総合	①魚沼自然教室事前学習 ①②職業調べ ②校外学習鎌倉事前学習（ガイドブックのみ） ③修学旅行事前学習（ガイドブックのみ）
英語	①②洋書を読んでみよう、英文学にふれてみよう
家庭科	①食 ②衣服 ③住まい
理科	①動物の分類 ①植物の分類

実践の評価

図書館での学習、教室と図書館を行き来しながら進める学習、教室で図書を利用する学習を行った。
 図書を利用する学習方法を考え試すことができた。
 教科によって、図書の利用のしやすさが異なる。どの教員も図書利用を模索しつつ、利用しやすい教科
 担当が積極的に利用するようにする。
 教員が実物を見ながら選書する機会を設け図書を購入したので、今後の指導に役立てたい。

6 図書館運営計画	
(1) 日常的な取り組み	
・朝読書（週 5 回） ・学級文庫（月 1 回入れ替え）	
(2) 主な行事等の取り組み	
・読書週間 全校年 1 回	
(3) 図書委員会などの取り組み	
・本の紹介展示 ・広報による PR（年 6 回～ 8 回） ・ビンゴなどのイベント計画	
(4) 環境整備の取り組み	
・館内レイアウトを再考し、利用しやすい環境づくり ・電算化更新に備え、蔵書点検を行う	
(5) 司書・外部との連携	
・学習に必要な本の取り寄せ ・授業利用時の補助、資料準備	
実践の評価	
図書館の授業時の利用や生徒主体の企画について、支援員によく相談をして実施をすることができた。年間通して、図書利用の呼びかけを行うことができた。 システム変更の作業を進めることができた。図書館と生徒・教職員のタブレットがつながったので有効に利用したい。 図書館便りの紙配布をやめ、クラスルームでの配信にしたところ、読まない人が出てきてしまった。図書館の情報を多くの人に知ってもらう方法を検討する。	

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	探究的な学習を ICT と本、新聞など、複数の情報を活用して展開させる。	ICT と図書を併用した調べ学習を実施した回数：年 4 回	○
②	読書タイムを確保し、生徒一人が年間 10 冊以上の本を読むようにさせる。	生徒の年間平均貸出冊数：10 冊	× 家庭にある本を読んでいる生徒もたくさんいる。
③	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書や資料を活用した教員の割合：50%	× 約 20%

8 学校図書館全体に関する自己評価
図書館の活性化のため、図書委員が積極的に活動することができた。 支援員、栄養士、外部の図書館支援員と連携を取ることができた。 図書館からのお知らせは、直接呼びかけ、放送、クラスルーム、掲示で行うことができた。継続的な利用者も図書に関心をもてない生徒もいる。どの生徒も図書館に関心をもてる環境づくりを推進する。 ICT 推進に力を入れているので、併せて図書利用もとなると教員の負担が大きくなる。調整しながら引き続き授業時の図書館利活用を進めていきたい。実践例を共有していく。簡単な利用から広げていきたい。